

The impact of programmed death-ligand 1 expression on mismatch repair deficiency and Epstein-Barr virus status on survival outcomes in patients with stage II/III gastric cancer after surgery

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2022-06-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 秋本, 瑛吾 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002838

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2551 号

The impact of Mismatch repair deficient, programmed death ligand-1 expression and Epstein-Barr virus on survival outcomes in patients with stage II/III gastric cancer with adjuvant chemotherapy

術後補助化学療法施行 stage II/III 胃癌における MMR ステータス、PD-L1、EBV の予後に与える影響

秋本 瑛吾 (あきもと えいご)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は術後化学療法施行として主に S-1 が施行される本邦において stage II / III 胃癌の DMMR (Mismatch repair deficient) と PD-L1 (programmed death ligand 1)、EBV (Epstein-Barr virus) が予後に与える影響を初めて明らかにした臨床的に意義ある論文である。2007 年から 2015 年の間、RO 切除後 pStage II / III 胃癌と診断された 679 例を対象とし、背景因子、生存転帰を後方視的に比較検討した。対象の症例を adjuvant chemotherapy (AC) 群と surgery alone (SA) 群の 2 群に分け、それぞれをさらに DMMR 群と PMMR 群に分けて比較検討した。AC-DMMR 群は AC-PMMR 群と比較して 5 年 OS (92.0% vs 74.0%, log-rank $P < 0.01$) と良好であった。SA-DMMR 群は SA-PMMR 群と比較して 5 年 OS (71.1% vs 73.7%, log-rank $P = 0.89$) と差はなかった。多変量解析の結果、AC 群では DMMR は予後因子として抽出されたが (HR, 0.25; 95% C. I., 0.07 - 0.81)、SA 群では DMMR は予後因子として抽出されなかった (HR, 1.39; 95% C. I., 0.61 - 3.18)。サブグループ解析において、DMMR、EBV 陽性症例において PD-L1 陰性は予後不良で、その傾向は AC 群より SA 群でより顕著であった。術後補助化学療法を施行するにあたって DMMR、EBV、PD-L1 などをバイオマーカーとして慎重に対象を検討する必要がある可能性が示された。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。